



光徳だより

令和3年度 第一回 学校評価号

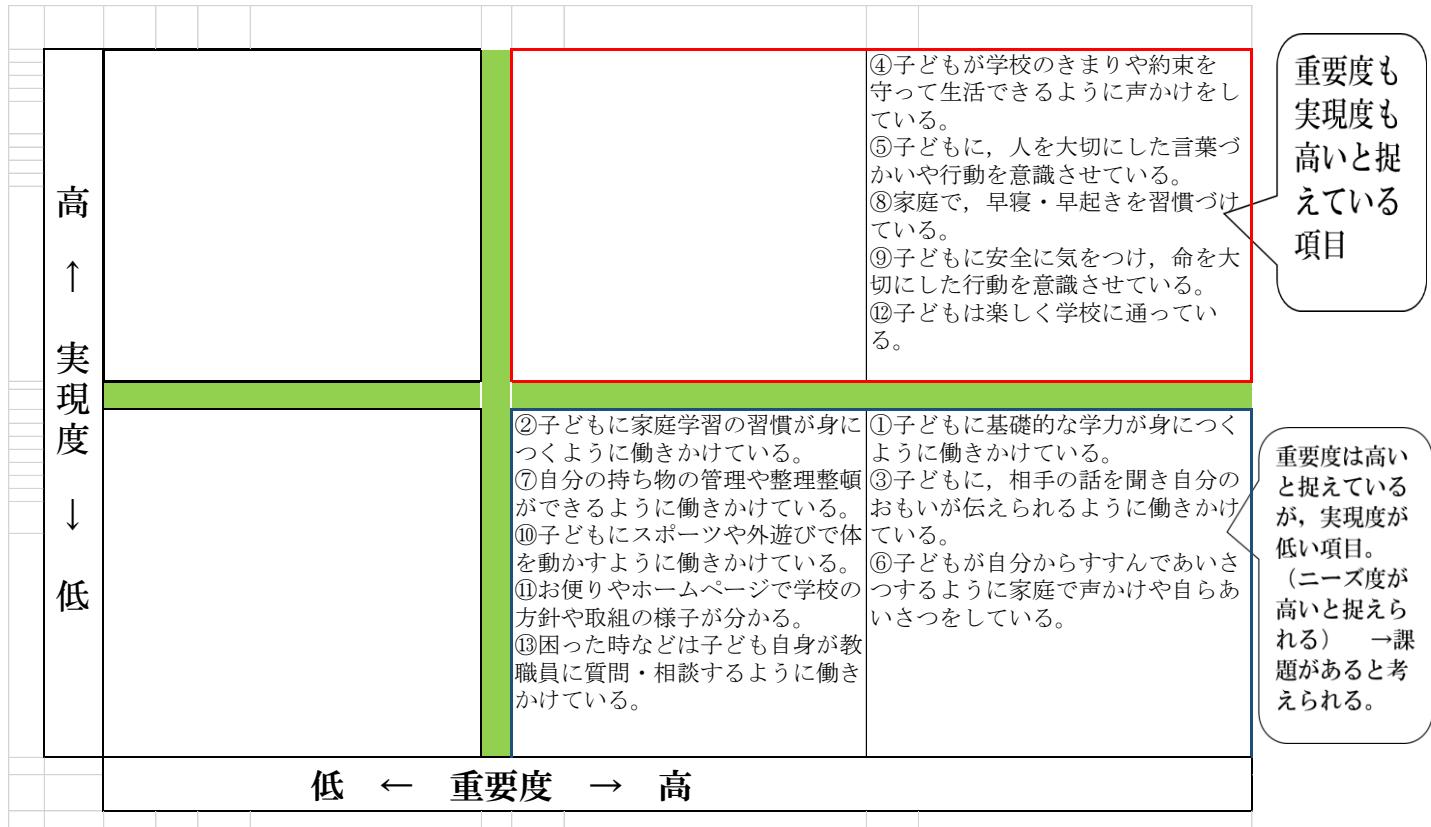


令和3年度11月発行 京都市立光徳小学校 校長 岩岡 洋史

学校教育目標『未来に向かって 共にかがやく 光徳の子 ～自ら学び 心優しく たくましく～』を具現化するために、確かな学力の向上と豊かな心の育成に取り組んでいます。7月にご協力いただきました学校教育アンケートの結果をまとめましたので、お知らせします。ご多用の中、アンケートへのご協力ありがとうございました。

保護者の皆様にご協力をいただいたアンケートの結果を総合的に分析して、現状を把握し、これから学校における推進すべき点が何か、また改善点はどこかを考察しました。また学校運営協議会の皆様にも結果をご覧いただき、今後の学校経営に向けてのご示唆をいただきました。以下、分析のご報告をさせていただきます。

(1) 保護者アンケート



今年度より、保護者アンケートでは、重要度と実現度をお尋ねするニーズ度調査型のアンケートに取り組みました。また、質問項目を自らを振り返ることができる形式で実施させていただきました。「(児童が) ~できるように働きかけている」という表記になっています。

○好意的な評価を得た項目について

- *子どもが学校のきまりや約束を守って生活できるように声かけをしている。
- *子どもに、人を大切にした言葉づかいや行動を意識させている。
- *家庭で、早寝・早起きを習慣づけている。
- *子どもに安全に気をつけ、命を大切にした行動を意識させている。
- *子どもは楽しく学校に通っている。

上記の5項目について、保護者は重要度も実現度も高いと捉えておられます。日々の児童の様子や学校でのお話を聞いていただいている中で、学校の取組をご理解いただき、意識してご支援いただいているものと感じます。「子どもは楽しく学校に通っている」が、多くの保護者の目から重要度も実現度も高いと捉えていただいていることは、うれしい結果であり、今後も魅力ある学校づくりを目指していきたいと考えています。

○ニーズが高い項目（課題があると捉えられる項目）について

- *子どもに基礎的な学力が身につくように働きかけている。
- *子どもに、相手の話を聞き自分のおもいが伝えられるように働きかけている。
- *子どもが自分からすすんでいきさつするように家庭で声かけや自らいきさつをしている。
- という項目に対して、保護者は、『重要度は高いが実現度は低い』と捉えておられます。

1つ目の「子どもに基礎的な学力が身につくように働きかけている。」は、学習面へのニーズの高さであると捉えます。基礎学力の定着を図るための授業改善や、教科領域の特性を見据えた学習を進めていくより一層の工夫・努力が必要であると感じます。また、宿題や課題については児童が家庭に持ち帰ったときに自分の力でできると自信がもてるよう支援していくことも大切だと感じています。

2つ目の「子どもに、相手の話を聞き自分のおもいが伝えられるように働きかけている。」は、児童が自分の思いを伝えることの大切さを感じていただけている結果だと捉えます。しかし、なかなか自分の思いがうまく表現できずにいることが見て取れます。教職員が児童一人一人に寄り添い、児童の思いをしっかりと受け止めること、そして保護者と連携を密にすることで、児童理解に努めています。

3つ目の「子どもが自分からすすんでいきさつするように家庭で声かけや自らいきさつをしている。」は、本校でも課題としてとらえている項目です。児童が元気いっぱいにいきさつができるようになるために、朝の登校時に門で児童を出迎え、教員が元気よく挨拶をすること、また挨拶の大切さをことあるごとに児童に伝えていくこと、そして元気よく挨拶ができた時にはおおいにほめることで挨拶をすることが児童の心地よさにつながることを目指します。

（2）教職員自己評価より

高 ↑ 実現度 ↓ 低	高 ↑ 重要度 ↓ 低
	<p>④決まりや約束を守ることで、みんなが気持ちよく生活できることを伝え、適切に指導している。</p> <p>⑤人を大切にした言葉を使かいや行動をするようにしている。</p> <p>⑥子どもがすすんでいきさつできるように教職員自らいきさつをしている。</p> <p>⑨命の大切さ、命を守る行動をとることの大切さについて適切に指導している。</p> <p>⑫子どもが学校へ行きたいと思える学級経営ができる。</p> <p>⑦掃除の仕方や整理整頓の大切さについて指導している。</p> <p>⑧早寝早起きなどの基本的な生活習慣が定着するように、子どもや家庭に働きかけている。</p> <p>⑩子どもとスポーツや外遊びで、いっしょに体を動かしている。</p> <p>⑪お便りやホームページで学習活動のねらいや子どもの様子を伝えている。</p> <p>①基礎基本が定着できるようにわかりやすい授業づくりを心がけている。</p> <p>②家庭学習の習慣が定着するように取り組んでいる。</p> <p>③相手の話を聞いたり、思いを伝えたりできるような授業や取組を工夫している。</p> <p>⑯子どもが相談しやすいような雰囲気や機会を作っている。</p>

教職員の自己評価も、保護者アンケートと同様に、ニーズ度調査型アンケートに取り組みました。質問項目は保護者と同じ自らを振り返ることができる形で実施しています。「(児童が) ~できるように指導している・支援している」という表記になっています。

○教職員のニーズが高い項目（課題があると捉えていること）について

*基礎基本が定着できるようにわかりやすい授業づくりを心がけている。

*家庭学習の習慣が定着するように取り組んでいる。

*相手の話を聞いたり、思いを伝えたりできるような授業や取組を工夫している。

*子どもが相談しやすいような雰囲気や機会を作っている。

という項目に対して、教職員は『重要度は高いが、実現度は低い』と捉えています。

この4項目に関しては、我々教職員の指導面・実践面に直接関わる事柄です。この自己評価を真摯に受け止め、学校教育目標に掲げている～自ら学び 心やさしく たくましく～成長していくようにしていきます。課題と捉えた部分においては、具体的な実施方法を模索し、協働しながら丁寧な教育活動を進めていきたいと思っています。

具体的には、『基礎基本が定着できるようにわかりやすい授業づくりを心がけている。』では、教材研究はもちろん、児童がどこでつまずきやすいのか、どのような手立てが有効であるかをしっかりとと考え授業に臨みます。個別の対応も休み時間や放課後など児童に寄り添っていきます。

『家庭学習の習慣が定着するように取り組んでいる。』では、なかなか自分一人の力ではできない児童に対して、放課後に残ってするよう提案をし、個別に支援することでできたと感じさせられるようにしていきたい。また、保護者とも連絡を取りながら、具体的なサポートをご協力いただくなど、児童のやる気を引き出せるようにしていきます。

『相手の話を聞いたり、思いを伝えたりできるような授業や取組を工夫している。』では、話す・聞くを意識した授業展開を考え、児童が自信をもって発言できる環境づくりを目指します。自分の意見が認められる喜びは児童にとって力になると考えています。

『子どもが相談しやすいような雰囲気や機会を作っている。』では、日々の生活から一人一人の児童に寄り添う姿勢を大切にしています。児童が出す小さなサインを見逃さないよう努力していきます。

児童が「分かった」「楽しい」と感じる環境づくりのために、課題である「分かりやすい授業づくり」「家庭学習の定着に向けての支援」「聞く・話すことが楽しいと思える取組の工夫」をしっかりとと考え、取り組んで参ります。また、児童の困りや悩みに寄り添える環境づくりにも力を尽くします。

(3) 児童アンケートについて

質問	グラフ	よくできている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
授業がよく分かる。		44.3%	46.7%	7.1%	2.0%
家で時間を作めて宿題や勉強をしている。		36.1%	32.9%	20.8%	10.2%
授業では友達や先生の話を聞き、自分のおもいを伝えることができている。		34.9%	46.3%	14.5%	4.3%
学校や学級の決まりを守っている。		56.9%	36.5%	5.1%	1.6%
友だちやまわりの人を大切にしている。		69.0%	25.5%	4.3%	1.2%
自分から進んであいさつ（「おはよう」「ありがとう」「さようなら」）をしている。		53.3%	32.5%	10.6%	3.5%
自分の持ち物の整理整頓や毎日の掃除を頑張っている。		52.9%	34.5%	11.0%	1.6%
早寝早起きをしている。		55.3%	34.5%	8.2%	2.0%
安全に気をつけ、命を大切にした行動をしている。		75.3%	19.2%	4.3%	1.2%
休み時間には外遊びで、身体を動かしている。		37.3%	28.2%	22.4%	12.2%
学校や友達のことについて家族と話をしている。		56.1%	24.3%	14.5%	5.1%
学校は楽しい。		60.8%	26.7%	8.2%	4.3%
学校の先生は、話しかけやすい。		57.3%	29.4%	11.0%	2.4%

児童のアンケートにつきましては、実現度のみを調査する点検型のアンケートに取り組みました。このデータは、全学年分の児童のデータです。

○課題があると捉えた項目

- *家で時間を決めて宿題や勉強をしている。
- *自分から進んでいきさつ（「おはよう」「ありがとう」「さようなら」）をしている。
- *早寝早起きをしている。
- *休み時間には外遊びで、身体を動かしている。
- *学校や友達のことについて家族と話している。

児童のアンケートから、「家で時間を決めて宿題や勉強をしている。」の項目で約30%の児童があまりできていない・できていないと回答しています。児童の宿題の提出の様子からは、頑張っている様子も伺えますが、出来ないと感じている児童も少なくありません。自学自習を進めていく中で、宿題をはじめとする家庭学習の取り組み方について、今一度支援の方法を考えて発信していきたいと思います。

「自分から進んでいきさつ（「おはよう」「ありがとう」「さようなら」）をしている。」の項目では、ずいぶんといきさつの声が出るようになってきていますが、まだできていないと感じている児童もいます。保護者のアンケート結果にも記しましたように、教員から発信していくことで、児童が挨拶をすることで心地よいと感じてもらえるようにしていきたいと考えています。

「早寝早起きをしている。」の項目では、児童はおおむね意識でき、規則正しい生活ができている様です。学年別を見ると、高学年の就寝時刻が遅くなっているようです。習い事の時間が遅くまであること、家での時間の使い方、ゲームやユーチューブなど動画視聴などが要因としてあります。生活点検の結果から、1日2時間以上使っている児童が多かったことが分かっています。体調管理の面からも、引き続き早寝を心がけるとともに、質のいい睡眠をとれるように声かけをしていく必要があると考えています。

「休み時間には外遊びで、身体を動かしている。」の項目では、緊急事態宣言が発令されている間は、運動場での総合遊具・鉄棒・ボール・大縄の使用ができないこともあります、外遊びも難しい状況です。児童は、おにごっこやレパートリーを考えて遊んでいる姿が見られます。体を動かすことについては、何とかできることを考えて、可能な運動を体育の時間に指導しています。

「学校や友達のことについて家族と話している。」の項目では、なかなか自分から学校の様子を話さない児童がいるように感じます。学校では、児童が毎日笑顔で帰宅し、学校での楽しい様子が1日の家族の会話になればと思っています。学校では、引き続き各学年のお便りや光徳だより、ホームページを活用して学校の様子をお伝えできるように努力していきます。

（4）学校運営協議会　　学校評価推進委員会の皆様からのご意見

1)「確かな学力」について

- ・時間を決めて宿題をすることや家庭学習について各家庭に理解を求める必要があるように思います。
- ・家庭学習について、保護者の共働きや習い事をしている子どもも多く、子ども自身が時間に追われてないでしょうか。時間が短くても毎日家で学習する習慣が大切であると感じます。
- ・家庭学習の働きかけができないと感じている保護者も多いようなので、どのように声かけをすればよいか、学校からの発信があるとよいと思います。
- ・読書について、放課後の時間的余裕が少なく習い事や友だちと遊ぶことがあると読書のための時間がとりがたいことや活字離れにより、保護者自身の読書週間も減少していることもあると思います。
- ・子どもたちに読書を働きかけるとともに、保護者が読んでいる姿を見せることもできると思う。

2)「豊かな心」について

- ・いきさつする人の目を見てするようにすることを伝えていくことが大切。
- ・中学生になるとスマホを持つ子も多いと聞く。与えてよいものか悩んでいる。休みになるとゲーム等で遅くまで起きていることがある。大人もこどものために頑張らなくてはと思います。

3)「健やかな体」について

- ・休み時間の外遊びが下がっているのは、コロナの影響もあったのではと思います。
- ・新型コロナで外出を控えたことが影響したものと思われる。子どもの体力低下に繋がるのではと心配になります。
- ・マラソン大会と同様、球技大会や定期的な体力テスト（データを残す）もよいのではないか。